

MeSO-net等による首都圏の詳細な揺れの分布 Distribution of the quake in metropolitan area by MESO-net

*酒井 慎一¹、青井 真²、木村 武志²、上野 友岳²、平田 直¹

*Shin'ichi Sakai¹, Shin Aoi², Takeshi Kimura², Tomotake Ueno², Naoshi Hirata¹

1. 東京大学地震研究所、2. 防災科学技術研究所

1. Earthquake Research Institute, University of Tokyo, 2. National Research Institute for Earth Science and Disaster Resilience

首都圏地震観測網（MeSO-net）は、深さ20mの孔底に設置した三成分加速度計からなる地震観測点で、24時間365日の連続観測を行っている。現在は301点からなるが、東北太平洋沖地震が発生した2011年3月11日には、249点が設置されていて、そのすべてで観測記録が得られている。首都圏の中心部である東京23区における観測点間隔は2～3kmであり、震源地から100km以上も離れているため、そのゆれに大きな違いはないはずであるが、距離による減衰効果だけでは説明できない違いが見られた。地形や地盤構造の違いに起因するものと考えられるが、その詳細については不明な点が多い。今後の大地震による揺れの分布を推定する際には、この揺れの不均質を考慮する必要がある。そこで、MeSO-net等で得られた記録を詳細に検討し、地形や地盤との対比を行った。もっと稠密な観測記録を得たときには、より高密度な揺れの把握と推定を行う手法の開発を行う。

キーワード：首都圏地震観測網、揺れの不均質、高密度な揺れの把握と推定

Keywords: MeSO-net, heterogeneity of quake, recognition and estimation of a high-density quake